



Beans Phoenix



【JA福井県産大豆の復活とさらなる飛躍を目指して】

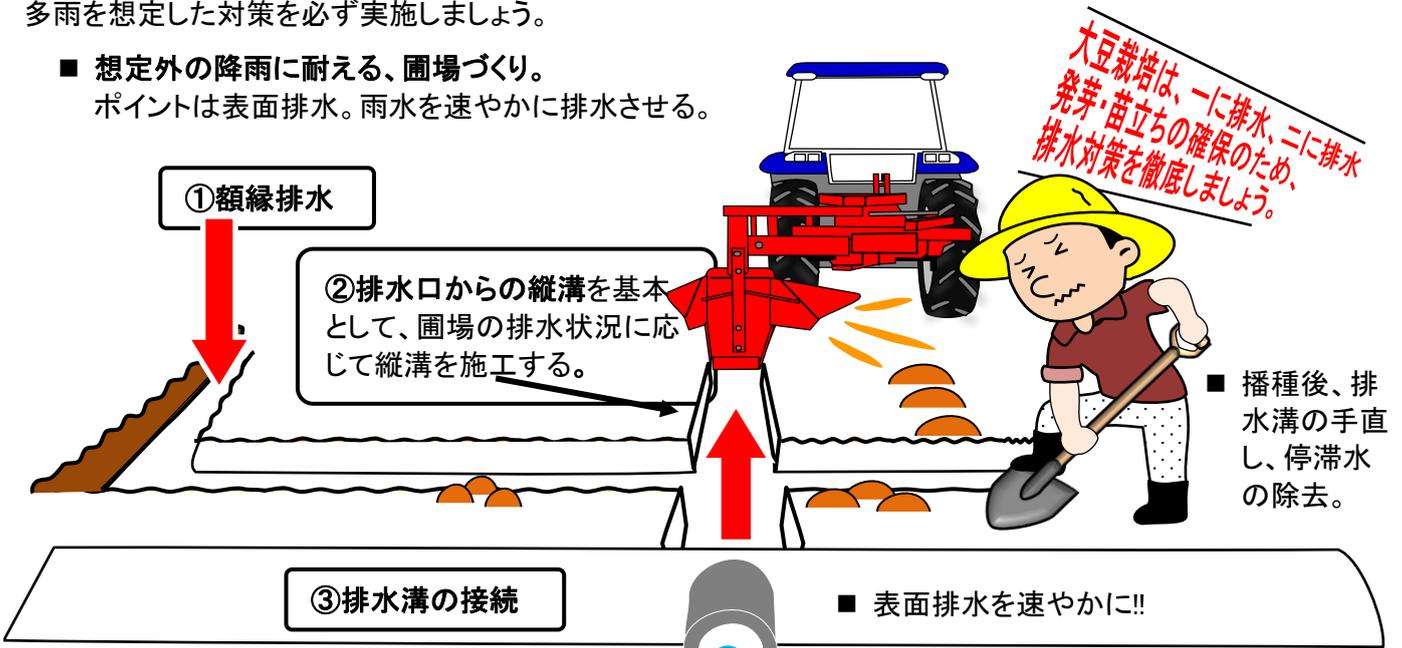
大麦の刈取が5月末からスタートしました。大豆の播種作業に向けて、大麦刈取り後は、排水対策をすみやかにはじめてください。昨年は6月18日に梅雨入りでした。今年の梅雨入りは早まる予想です。昨年、湿害にあった方は、十分な排水対策を実施して、播種作業に取り組みましょう。

1. 排水対策の徹底

低単収の原因No1、湿害(排水不良)

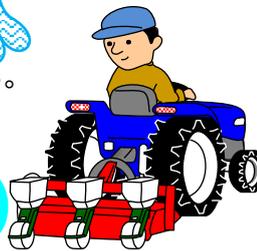
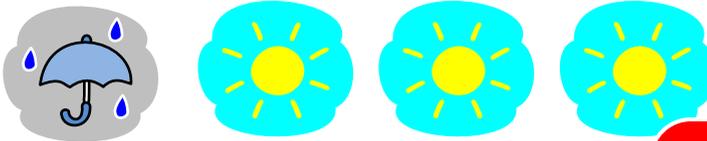
昨年は比較的収量はありましたが、一昨年は播種直後の大雨、長い梅雨により湿害が拡大しました。多雨を想定した対策を必ず実施しましょう。

- 想定外の降雨に耐える、圃場づくり。
ポイントは表面排水。雨水を速やかに排水させる。



3. 播種のポイント

- 降雨後の播種は、出来るだけ圃場を乾かしてから。



- 播種作業は、ゆっくり丁寧に。 (播種面積は2ha/日)
- 播種量(10a当たり)
* 普通(培土): 7.5kg~
* 狭畦密植: 11.5kg~ (苗立ち率・スリップ率:70%)
- 目標苗立本数: 12本/m

● 播種作業

● 排水対策



『ゆっくり播種で碎土率を上げると・・・』

- 発芽・苗立ちが良くなる
- 根量が増え根粒菌が増える
- 除草剤の効果が十分に得られる

① 播種後、発芽前除草剤

薬剤名	使用量
エトップ乳剤	500ccを水100ℓに
プロールプラス乳剤	
サターンハアロ粒剤	4~6kg
トレファサイド粒剤	4~6kg